

昭和5年、城址にあった県庁が火事のため全焼しました。再建するにあたっては、元の場所
にという意見もありましたが、最終的には城址の北（現在地）に新築移転することに決定しま
した。城址はここに明治以来の県庁敷地としての役目を終えたのです。

さて、都市計画による破壊の危機を脱し、そして県庁敷地としての役目も終えた城址は、風
致地区として、永く後世まで保存されることに決定しました。昭和8年に都市計画風致地区に
指定され、現在に至ります。風致地区指定の理由は次の通りです。

富山城址一帯ハ、幽邃ニシテ自然ノ景趣ニ富ムモノ多ク、カツ富山市民ガ往昔ヲ俾
ブ唯一ノ古跡タリ。然ルニ、市ノ発展ニ伴イ、ヤヤモスレハ由緒アル遺蹟ハ壊滅セ
ラルル恐レアルヲモッテ、(中略) 風致地区ニ指定シ、景趣ヲ維持保育セムトス

富山城址一帯は、物静かで奥深く、趣きがある。さらに、富山市民がいにしえを偲ぶことが
できる唯一の遺跡である。しかし、市の発展に伴って、由緒ある遺跡は破壊される恐れがある
ため、風致地区に指定して保存する。

なお、富山城址は昭和14年に都市計画公園に指定され、その翌年整備の上、「富山公園」と
して開園しました。しかし同20年8月、空襲により富山市街は焦土と化し、城址にあった木々
や建物も全て焼失してしまいました。

こんなこともありました その5

昭和11年、神通川廃川地（旧神通川の埋
立地）を会場として、日満産業大博覧会が開
催されました。その際、会場の一部として城
址に子供用の遊具を揃えた「子供の国」が建
設されました。以前から、風致地区に指定さ
れた城址を公園化するための調査が進められ
ていました。そのため、この機会に児童用
の運動器具などの設備を整えることができ、
博覧会終了後も公園の施設として残すことが
できたのです。



堀に浮かぶボート

現在の城址公園自由広場の南から、全日空ホテルの方
向を見たものです。会期中、堀には児童用ボートが浮
かべられました。